

京大出身 現役ヴァイオリニスト

松尾依里佳 さん

ヴァイオリンとの出会い

—ヴァイオリンを始めたきっかけは？

もともと、母が幼児教育の一環で何か楽器を演奏させたいと思っていたようで、2歳から音楽教室に行っていたんです。そんな中、私がヴァイオリンの音色にすごく興味を示したようで、それがきっかけで4歳から始めました。

—ヴァイオリンの演奏が上達していく中で大きかったのは？

やはりいい先生に出会えたことですね。特に工藤千博先生に師事したのが大きいです。工藤先生は有名な門下生を多数輩出されていて、「ヴァイオリンの小児科」って言われるほど小さい子を教えるのがうまいんです。普通、音楽の理論って幼いときには難しくてわからないんですけど、「物差しがしなるように」とか「さめざめ泣くように」とか、感性に訴えかけてくる言葉を交えて、実際に弾きながらわかりやすく指導してくださいました。それから、先生には「自分の想いをもっともっと出すようにしないと伝わらないんだ」と何度も教わりました。これは音楽の表現で本当に大切なことでして、今でもすごく印象に残っています。

—中高時代はどのような生活を？

中高時代は学業とヴァイオリンの2つでいっぱいだった状態で、部活の方にはほとんど参加できませんでした。興味があったのでテニス部にも入ってみたいんですけど、活動が毎日あって……。テニスウェアを買ったとたんに行かなくなるってぐらいの幽霊部員ぶりを発揮していました(笑)。

一方で、ヴァイオリンはずっと自分の生活の中心でした。自分の気持ちを一番表現できるものだというのもあって、どんどんヴァイオリンとの繋がりが強くなっていったので、辞めたいと思うようなこともなかったですね。

—なぜ京大に進学されたのですか？

音楽家になりたいという思いはずっとあったので、音大への進学ももちろん選択肢に入っていました。でも、自分が勉強してきたクラシックだけでなく、もっといろんなジャンルの音楽に触れて、自分が表現したい音楽を見つけていきたいとふと思ったんです。だから、音大で専門的にクラシックだけを学ぶというのではなくて、総合大学に行って普通の

人の音楽に対する声も聞いてみたいと思いました。もう一つ、京都の街で学生生活を送りたいなっていう思いもあり、京大を目指すことにしました。

受験では、なかなか成績が伸びなくて苦労したんですけど、「浪人したらヴァイオリンをもう1年弾けなくなるんだ」って思って、それをモチベーションにして何とか乗り越えられましたね。

—京大での生活はどうでしたか？

実は勉強面では結構いろんなことがありました(苦笑)。辞書を買わずに勉強してドイツ語の単位を落としたり……。他には持ち込み可の専門のテストで友達のノートをコピーして安心していたら、テスト中にコピーのミスに気付いて大ピンチに陥ったり……。

それから、普通の人は早いうちに単位を取っていくと思うんですけど、私の場合は大学生活の前半で音楽活動を軌道に乗せることに力を注いでいたら、勉強の方が最後になるにつれてクレッシュェンドするかのようになっちゃって……。音楽活動のための休学もはさんで、5回生の前期に復学したんですが、学部の知り合

いがみんな卒業していたので、せっかくなら新しく何かのコミュニティに入りたいと思っていました。そしたら先輩から「留学生のための『龍の会』があるよ」って紹介されたので、結局そこに入って、この時期は大学生活の中で一番真面目に勉強していました(笑)。

—サークルは何かされてましたか？

軽音サークルと英会話系サークルの2つに入っていました。

軽音サークルの方は、J-POPや軽音のような流行りの音楽がもともと好きで、バンドを組みたいという思いがあって入りました。というのも、ヴァイオリンがセンターで主旋律を弾くようなバンドをやりたいと思っていて、そういうことができる仲間が欲しかったんですね。

ただ、京大らしい面白い人に出会いたって思うと、軽音だけでは満足できなかったんです。それでいろんなサークルを探していたら、「英語を話しに来ませんか？」みたいなピラが目に入って。実際にそのサークルに行ってみると本当に面白い人ばかりで、「これだ!」と思って入りましたね。



現在の活動

——音楽活動のデビューのきっかけは？

大学入学と同時に何かしらの活動をスタートして、他の人が会社の内定をもらう時期には「音楽活動の内定」が欲しいと思っていました。だから焦ってがんばっていたんですが、先ほど述べた軽音サークルでジャズと出会うんですね。

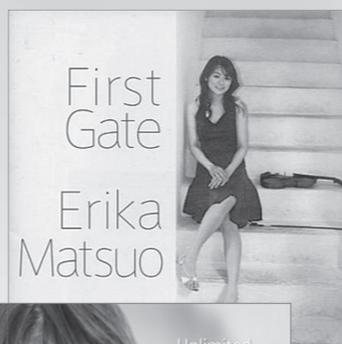
ジャズをきっかけにサークルの外部の方と演奏することになって、そのうちプロで活躍されているジャズ演奏家のおじさまたちが私の音楽活動への想いをくみ取って、ソロライブのステージを企画してくださったんです。いわばこれが私のプロデビューですね。

このステージにはなんとテレビの取材も来て、関西のある番組で取り上げていただきました。これをきっかけにツアーを回らせていただいたり、他の番組でも取り上げていただいたりしました。普通だったらありえないので、本当にラッキーだったなと思っています。

——音楽活動に転機はありましたか？

京大にいた間はフリーで活動していましたが、5回生の後期に『のだめカンタービレ』のドラマにオーケストラメンバーとして参加することがありまして。そこで音大出身の同世代の方とたくさん友達になれたのは自分の中で大きなことだったと思います。彼らが音大で学んでいることやヴァイオリンの練習以外の音楽への向き合い方が、私にとってすごく刺激になりました。

それと同じ時期に自分で曲を書こうと思ったのも大きなことでした。『のだめ』で出会った音大や芸大の友達の中には、自分で曲を書いている方もいて、その姿を見ているうちに私も自分で曲を書こうと自然に思えたんですね。そして、『のだめ』が終わった後になって、一緒に曲を書こうという方にお会いして、最終的には自主制作でミニアルバム『First Gate』を作ったんです。



▲上：ファーストミニアルバム『First Gate』
下：ファーストマキシシングル『Unlimited』

「今まで本当にご縁の数珠 つなぎで来たんだなって」

——音楽活動以外にタレント活動もされていますよね？

そうなんです。司会やクイズ番組などもしているのですが、これは今の事務所に入ったのがきっかけなんです。

もともと、どこかの事務所に入ろうとしていたわけではなかったんですが、高校の先輩で元MBSのアナウンサーの角淳一さんに自分のCDをぜひ聴いていただきたいと思ってお手紙を送ったら、角さんと何度か直接お会いする機会をいただいたんですね。そのとき、どこかの事務所に入った方が活動しやすいだろうということで、紹介してくださったんです。こうしてみると、今まで本当にご縁の数珠つなぎで来たんだなって感じます。

でも、事務所の方から突然クイズ番組出演のお話をいただいたときは、まさに青天の霹靂でした（苦笑）。「私は音楽家なのに……」という思いもあって、楽器を持たない仕事に最初は戸惑いましたね。

——今ではどうですか？

最初はクイズの出来も散々で……。これじゃいけないと思って、クイズはクイズでせっかく出していたらいいのだからということで、がんばっています。

私は好奇心旺盛な方なので、楽しいことをするのは大好きですし、今出演させていただいている番組やバラエティでも、皆さんに面白かったとか感動したとかたくさん反響をいただくんですね。皆さんに喜んでいただくのは何より嬉しいですし、こちらもすごく楽しくて大切なお仕事となっています。

そういう活動の中では、京大での経験も生きていると思います。何事も興味のあることを調べたり楽しんで学んだりするというライフサイクルが京大にいうちで身に付いたんだと思うんです。それから、京大で出会った友人たちが各分野でがんばっている姿を見ると、自分の活動への刺激となりますね。

(文・院 まさk)
(何も恐れずそんな感じで；編)

今後の活動

——今後の活動の目標は？

まずは音楽の活動をもっと充実させていきたいですね。

クラシックとかジャズとかいろんな音楽をやりたいなと思って始めたわけですが、自分自身がいろんな方にお会いしたりいろんな経験をして成長したりしたことで、表現したいものもどんどん変わっているんですね。また最近では、嬉しいことに今までだったら立てなかったような大きな舞台に立たせてもらう機会もいただいています。そうした中で、もともとやってきたクラシックをもっと勉強したいという思いもありますし、新しい作品を作りたいという思いもあります。自分の書いた作品が皆さんに楽しんで聴いてもらえたり、口ずさんでもらえたり、そんなふうに親しみをもって聴いていただけたら嬉しいなと思います。コンサート活動の方もどこかでできたら嬉しいですね。

それから、音楽以外の活動の方では、関西で『探偵！ナイトスクープ』という番組に出演させていただくようになってから、テレビ番組のナビゲーターをさせていただいたり、いろんなイベントに出演させていただいたりとお仕事の幅も年々すごく広がっていています。そうしたお仕事をさせていただけるのは本当に幸せなことだと日々感じていますし、ひとつひとつ楽しんでやっていきたいなと思います。

あとはそうですね、いろんな専門分野とか他のジャンルに対してすごく興味があるので、いろんな方々にインタビューのようなことをしてみたいです。ありがたいことに、今回のようにインタビューをしてもらう機会をいただいているんですけど、聞き役として他の方々のお話をお聞きするというようなお仕事、もし機会がいただけるようならできるといいですね。



Profile

1984年大阪生まれ。京都大学経済学部卒業。2004年、大学在学中にプロヴァイオリニストとしてデビューし、本格的な音楽活動始める。コンサート活動のほか、ドラマ『のだめカンタービレ』のオーケストラメンバーとして出演。2008年7月にはファーストミニアルバム『First Gate』をリリース。音楽活動以外にも精力的で、テレビ番組『クイズプレゼンバラエティQさま!!』や『探偵！ナイトスクープ』などにも出演している。

京大生にメッセージ

——最後に京大生に向けてメッセージをお願いします。

大学生活って本当に意外とあっという間に終わってしまいます。だから、「こういう人たちに会いたい」という思いがあるなら、いっぱい探してみたいと思います。私もすぐには見つけれませんでしたけど、きっといろんな友達と出会えます。私自身、京大で出会えた仲間とか友達とかが一生の宝物だなと卒業後に改めて感じるので、皆さんにもぜひ学部を越えて生涯の仲間になるような方と出会ってほしいです。

それから、京大は周りに史跡がたくさんあって自然も豊かな素晴らしい環境にありますし、大学生活での思い出はいつまでも鮮やかによみがえってくるようなかけがえのないものです。なので、京大生の皆さんにはぜひこの京大という場を満喫してほしいと思いますね。

——ありがとうございます。

(工・院 YB)
(婚約破棄の話先輩に聞かされた私の気持ちよ；編)



▲取材で終始笑顔で受け答えをしてくださった松尾さん



▲昨年京大で行われた中央キャンパス祭2015でのトークショーの様子

はみだし
すてーじ
卒論出しますとドクターの先輩が言った。(婚姻届的な意味で)
⇒この数時間前に

はみだし
すてーじ
十人十色に自分のが載ってて発狂しました。
⇒一度壊れなきゃ新しいものが生まれないので